

6月定例会
総括質問
 主な質問と答弁

数田 俊樹 議員

市長に問う
三大事業について

問 新庁舎建設事業の進捗状況と課題について伺う。
市長 建物の地下と地上部分の構造体造っており、スケジュールどおり順調に進んでいる。今後の課題としては、新庁舎での業務を円滑に開始できるように移転を完了すること、新館を有効活用することがある。新館は今年度、耐震診断を実施するので、その結果を受けて改修を検討していく。

市長 建築工事、電気工事、衛生工事がともに仕上げの段階となっており、合わせて外構工事を行っている。プラント工事では、機器付属品の取り付け工事、電気計装工事を行っているほか、機器類の試運転も行っている。今後の課題は、7月1日から予定している試運転期間中の性能試験を着実に実施し、施設としての性能を確認したうえで、10月からの本稼働を順調に迎えることである。

問 市民病院整備事業の進捗状況と課題について伺う。

清風クラブ

市長 仮設バスロータリーの工事が完了し、既存の救急棟や管理棟などの解体工事を進めている。また新棟の工事のうち、電気工事は落札され契約に至ったが、入札が不調に終わった建築工事については条件などを変更して再公告をした。また、談合情報があり中止した空調工事と衛生工事については、再発注の時期や方法を検討しているところである。今後の課題については、建設地が周辺の住宅と近接していることや、病院敷地内での建て替え工事であることから、周辺環境や病院運営への配慮が必要であることなどが考えられる。

問 市役所新庁舎については、市民のために建設現場見学会を予定しているが、可能な限り多くの市民に見ていただけるよう継続して実施することを望む。
総務部長 今後、こういったものを市民に見ていただくことがよいか検討して、できるだけ多くの市民に見ていただくことで、市民に開かれた新しい庁舎の建設を目指していきたい。

野崎 審也 議員

介護予防事業の充実

問 介護を受けずに自立して生活できる健康寿命を延ばすための一次・二次介護予防事業の取り組みをどう評価・分析しているのか。
福祉部長 一次予防事業では、元気な高齢者を対象に介護予防に関する知識の普及・啓発や、自主的な活動の育成・支援を行った。二次予防事業では、学識経験者らによる地域支援事業検討会などで事業評価を実施しており、チラシの工夫や申し込み方法の変更で参加者を増やし、事業の効果の底上げを図りたい。

問 単に参加人数や参加回数を目標とするのではなく、介護予防事業を通じて生まれる効果や成果を検証・数値化していく考えはあるか。

福祉部長 平成24年度から生活機能チェック表の内容や事業への参加履歴をデータ化している。今後追跡調査を行い、効果の有無を介護予防につなげたい。

問 よい事例の発表による情報共有や、1年間健康で過ごした人への表彰状の進呈など、健康寿命につながる施策について考えを伺う。
福祉部長 優秀な方を事業者が表彰するのはとてもよいことである。体験事例の共有も含め、今後の介護予防事業につなげたい。

元気な高齢者支援策
問 「ひらつか元気応援ポイント事業」がスタートしてから1年以上経過したが、現状と課題、今後の進め方を伺う。
福祉部長 1年を経過した時点での会員は148人、活動の受け入れ機関は34社

都市整備部長 市民のニーズがあることは認識している。設置については、安全性や駐車場の確保、公園の利用者や施設への配慮、近隣住民への影響など多くの課題があり、どこで、どのような形態で市民にパーベキューを楽しんでいただけるのか、今後検討している。パーベキューを行うには一定規模の広さがないと不可能だと思うので、市が管轄しているいろいろな公園から条件に合うものを選択し、パーベキューを行うことが可能なか、課題はあるが前向きに検討していきたい。

都市整備部長 市民のニーズがあることは認識している。設置については、安全性や駐車場の確保、公園の利用者や施設への配慮、近隣住民への影響など多くの課題があり、どこで、どのような形態で市民にパーベキューを楽しんでいただけるのか、今後検討している。パーベキューを行うには一定規模の広さがないと不可能だと思うので、市が管轄しているいろいろな公園から条件に合うものを選択し、パーベキューを行うことが可能なか、課題はあるが前向きに検討していきたい。

健康なまちづくり
を 目 指 して

問 がん検診や歯科検診の啓発は、将来の経済的負担を軽減するうえで重要と考えるが見解を伺う。
健康・こども部長 少子高齢化が進む中で、がん、心疾患、生活習慣病の予防を重視した健康づくりが重要である。生活習慣の改善、定期的な検診を受けるための正しい知識の普及、啓発は病気の予防にもなり、将来的には個人と社会全体の経済的負担の軽減につながる。

問 がん検診の受診率が高まれば、約2億4500万円という健康増進事業の事業費が削減できるのではないか。そのような目標はあるのか。
健康・こども部長 受診率が上がれば、いすれ事業費は減ってくるという認識を持っている。

問 平成30年4月に、精神障がい者の雇用が義務化されるが、そのための基盤作りが必要ではないか。
産業振興部長 法の施行までの間、国の動向を注視しつつ、ハローワークや商工会議所、庁内関係部署と連携し、雇用促進に向けた環境づくりを進めていく。また、企業の理解を深め、障がい者の雇用が促進されるよう、本市の情報誌やホームページ、労働セミナーなどを活用し、制度の周知に努めていく。

問 パーベキュー場の整備については、先の3月定例会でも要望した。パーベキューを行える場所の整備と確保は市民のニーズも高く、受益者負担の仕組みで実施すれば初期投資額は回収できる事業だと考えている。歳入が減少し続けている状況下では、収益事業を積極的に実施していかねばならない。ぜひとも整備に向けた前向きな議論ができればと思うが、本市の見解を伺う。

問 業所であり、平成24年度にポイント交換した会員は71人である。登録しても活動に結びついていない会員がいることや、新規会員が増えていないことが課題である。今後はアンケートの結果を基に、活動しやすい環境の整備を進めていく。
問 高齢者が草刈りや海岸清掃などのボランティア活動を行った場合も、元気な高齢者の支援策としてポイントが付与できないか。
福祉部長 ボランティア活動は、確認が難しいことが課題である。

問 ポイントを換金せずに積み立て、将来自分が介護を受けたいときに使えるような制度を検討できないか。
福祉部長 厚生労働省とも確認しながら研究したい。

問 意味において、本市はなぜ条例を制定しないのか。
健康・こども部長 歯科検診の条例化も含めた中で検討を進めている。

問 商店街のユニバーサルデザインに向けて、どのような取り組みを行っているのか。
産業振興部長 現在はユニバーサルデザインの導入に向けて、関心を高めるための

点字版議会だより
声の議会だより

ご利用
ください

平塚市議会では視覚障がいのある方に向けて、ひらつか議会だよりの掲載記事を抜粋した「点字版議会だより」と、音声による「声の議会だより」をご用意しています。ご希望の方には郵送しますので、お近くに必要の方がいらっしゃる場合はご案内ください。

「点字版議会だより」は、市役所本庁舎1階市政情報コーナーや各図書館でもご覧いただけます。



「声の議会だより」は平塚市社会福祉協議会と平塚音訳赤十字奉仕団の協力により作成しています。

平塚市議会 議会局 (☎21-8791)

※ユニバーサルデザイン：性別、年齢、文化、障がいの有無などの差異にかかわらず、すべての人が快適に利用できるように建築物や生活空間などをデザインすること。